

## 第3回 本町田地区小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事要旨

開催日時	2023年12月15日(金) 18:00~20:16	
開催場所	町田第三小学校 図書室(ウェブ会議併用)	
出席者 (敬称略)	委員	末吉委員、渡邊委員、渡辺委員、高柳委員、永山委員、日高委員、渡辺委員、安藤委員、手塚委員、野口委員、越水委員、中潟委員、小原委員、北澤委員、平本委員、本城委員、◎若月委員、望月委員、西山委員、○杉本委員、大谷委員 (◎:会長、○:副会長)
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、子ども生活部児童青少年課 玉川大学芸術学部
傍聴者	0名	

## 議事内容(敬称略)

## 1 第2回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課 (資料1説明)

## 2 報告事項

## (1) 新たな学校の校歌・校章の制作について

会長 本町田地区の新たな小学校の校歌・校章制作は、玉川大学と連携して行うことが決定した。特に児童や地域との交流を重視するという意見を尊重し、依頼先を決定した。校歌は佐久間教授、朝日教授、山田准教授が、校章は中島教授、博多講師に担当していただく。校歌は朝日教授の作曲、山田准教授の作詞となる。校章は芸術学部の学生有志が制作し、先生方が指揮・監修を行う。

新たな学校推進課 (資料2-1、2-2説明)

博多講師 小学校でワークショップを開催し、子どもたちと対話を通じて、彼らがどのような校章をイメージしているのかを探った。言葉のやり取りやワークシートによる描写を通じて、そのイメージをまとめ上げた。その結果を基に、現在、校章のデザインを進めている。

校章の制作に向け11月頃から、そもそも校章とはどんなものがあるのか、学生たちと調査を行い、その後デザイン制作作業に入っている。

まず、校章デザインのマッピングを行い、世の中の校章デザインと、その造形上の傾向を検討した。例えば円形に近いのか、多角形に近いのか等、校章を考える際の軸となるものを考えた。

次に、調査を経て、学生が実際に手を動かし、ラフスケッチを一人50点ほど描いた。そうした作業の中で、「ひなた」の視覚化や、2つ以上の意味を内包した形のほ

うが少ない面積で多くのことを盛り込んでいけるのではないかといったことを発見しつつ、改めてスケッチに取り組んでいる。

これらの作業を経て、3月に形を整えたものを2、3案提示する予定で動いている。

(2) 仮校舎の整備予定について(2025~2027年度)

施設課 (資料2-4、2-5説明)

(3) 新たな学校づくりに伴う学童保育クラブ及びまちともについて

児童青少年課 (資料2-6説明)

委員 学校によっては学童とまちともでルールが違うなど、不平等が起きている。学童とまちともを一体化することについての検討は無いのか。また、一体化しない場合でも、今運営を行っている事業者間の引継ぎ等だけでなく、他市事例等を参考に先進的な取り組みに関する情報提供も積極的に行っていただきたい。

児童青少年課 一体化については、他自治体でもそういった事例があることは把握している。現在情報を集めているところである。また、ルールに差があるということも把握している。

まちともについては地域の協力を得ながら進めているため、今後も話をしながら進めていきたいと思っている。2つのまちとも運営母体が1つになっても、地域の方も気持ちよく担っていただけるよう、引き続き調整していく。

委員 学童が統合しても児童のことを知っている事業者が指定管理者となってほしいと考えているが、制度について教えてほしい。

児童青少年課 通常、指定管理者は5年の期間で民間に運営を任せている。これまでも5年で切り替えてきているが、結果的には事業者は変わらない状況であった。先生が変わってしまうとの声はあるが、民間の事業者がそれぞれのノウハウを発揮してサービスを提供していく制度である現状、メリット、デメリットの両方あると考えている。

我々としては、指定管理者が変わる場合も、これまでのノウハウの継承や雇用への配慮はお願いしていく。また、子どもたちへの影響を最小限にできるよう事業者に求めていく。

委員 まちともに参加する児童が100名を超えることもある。活動場所の見直しももちろんだが、人手がもっと必要であると考えている。本日回答を求めるものではないが、現状の報告と今後に向けたお願いとして伝えさせていただく。

児童青少年課 ご意見として承る。

(4) 荷物らくらく登校の試行報告について

新たな学校推進課 (資料2-7説明)

会長 今回の試行について、出席している保護者委員の皆様よりご感想やご意見を伺いたい。

- 委員 ランドセルがないことで子どもたちはいつもと違うわくわく感があったようだ。ただ、親としてはランドセルの安全面や耐久性というところのメリットは改めて感じた。また、祖父母から買ってもらうといった文化的な側面での意見も出るのではないかと思う。
- 委員 我が家では男の子と女の子で真逆の反応だった。男の子は中身が空っぽでもランドセルを背負い続けた。一方女の子は、自由なカバンということでファッションの視点で背負うものを選んでいった。ただ、中身は不足があるのが不安でいつも通りの荷物を持って行った。リュックにすることで学校では指導が大変になるかもしれないが、楽しそうではあった。
- 委員 子どもに伝えたときは、子どもよりも親の方が、どんな感じになるのか少し楽しみにしていた。ただ子どもは、周りがみんなランドセルで、自由と言われても困ってしまって、結局ランドセルで行った。移動教室等をリュックで行った際に忘れ物をしたことがすごく嫌だったということもあり、周囲と違うことを気にするようになった。
- 委員 4点ある。1点目は、荷物が多い時に、大きめのリュックに全て入れることができ、子どもが喜んでいった。2点目は、リュックを変えたことで鍵などの定位置が変わってしまい、落下の不安などがあった。3点目は、水筒のみの日に他の荷物は一切持って行ってはいけないのかといった細かなところで迷った。4点目は、筆箱を持ち帰らないことで鉛筆を削るのをどうするのが疑問だった。
- 委員 ランドセルの方が形が保たれるので楽だと言っていた。  
他の児童にも聞いてみたが、教科書は持ち帰っても見ていない。教科書は持ち帰らず、クロームブックと筆箱だけ持ち帰るようにしてほしいと言っていた。
- 委員 子どもはリュックで喜んで登校していた。宿題も減って、置き勉も堂々としてできるのが良かったと言っていた。教科書は音読等で持ち帰らなくてはいけない教科もあると思うが、らくらく登校は本当に良かったと思う。
- 委員 荷物の入れ替えや忘れ物の不安から、ランドセルで通わせた。普段からランドセルの中身を確認しているが、筆箱と国語の教科書程度で、重さの負担は親としてあまり感じていない。
- 委員 期間中はリュックで通っていたが、子どもはランドセルでもリュックでもどちらでもいいと言っていた。  
置き勉をしていた期間中にノートが少なくなったと子どもから言われたが、低学年であることもあり、残り何ページなど具体的に教えてもらえず、親が予想して買った。ただ、マス目が学校指定のものと違い、結局買いなおすことになってしまったというところで、低学年だからかもれないが弊害も感じた。  
また、見守りをしてくださった方からはリュックで身軽になったことで、登下校中にちょろちょろしてしまう児童が増えて危なかったという声も聞いた。

## (5) 統合対象校の事前交流の実施状況について

新たな学校推進課 (資料2-8説明)

望月委員           そもそも交流をするという考え方のはじまりは、建物や施設が新しくなることは素晴らしいが、最優先すべきは児童であり、児童が円滑に統合出来なくては建物も施設も意味がないというところ。そこで、事前に児童同士を顔見知りにならうということで、昨年度から交流を始めた。生活科や総合的な学習の時間を活用し、それぞれの学校を訪問したり、ひなた村で交流をしたり、昨年度はどのような取り組みができるか、試したというところも多かった。

杉本委員           昨年度の交流を受けて、今年度1・2年生の遠足を薬師池公園で揃え、交流した。本町田東小学校で両校が集合し、その後薬師池公園でゲームなどを実施した。児童にとっては、統合後に一緒に勉強していくという良いきっかけになったと思う。

また、つい先日には3年生が交流をした。本町田東小学校の児童が本町田小学校を訪問し、きぼうの森を見学したり、体育館でゲームをした。3年生になるとこれまでの交流や地域の事前交流などで既に顔見知りになっていて、事前に手を振りあったりする様子も見られ、交流を続けていくことの必要性を感じた。

今後に向けても実際に統合する学年での交流を進めて行くために、打合せを進めている。

本城委員           地域での交流として、7月に本町田東小学校の体育館でミニ運動会を開催し、11月25日に子どもまつり創作教室を町田第三小学校の体育館を借りて開催した。

これまでは名札に学校名を記載していたが、今年度からは学校名の記載をなくし、運営する側もどこの学校の児童かを意識することなく実施した。これまでに交流を行っていたこともあり、子どもたちも学校に関係なくグループを組んで進めることができていた。また、協力してもらった保護者についても、学校に関係なくスムーズに進んでおり、3校一緒に何年も交流してきたことで、自然に関わることができるようになってきていると思う。

また、今年度は校歌・校章の制作を担当する玉川大学から、学生4名にも協力を頂いた。学生も自然に子どもたちの中に入っていており、3つの学校がいろいろなものを自然に受け入れられるようになってきていると感じた。

委員               交流の際、学年を問わずに交流をすることも重要だが、同じ学年などの共通点があることでより深く関わるができるということもあると思うので、そういった交流も今後やっていっていただきたい。

また、統合に向けて宿泊学習を合同でやったりといったことが検討されているのかなど、情報がわかり次第教えていただきたい。

望月委員           日光の林間学校については、前々から動きを進めて、次年度本町田東小学校と本町田小学校の宿舎を揃えた。今後町田第三小学校も宿舎を揃えても大丈夫なキャパシティの宿舎にしている。

委員               交流とは少し違った話になるが、現在本町田小学校にある特別支援学級の児童が

28年度に本町田東小学校の位置にできる新校舎に移る際はどのように考えているのか。通う学校が変わることへの課題については、恐らく見えていない部分も多い。新たな学校づくり推進課だけでなく、様々な部署が関わっていく必要があると考えているので、そちらにも配慮いただきたい。

望月委員 一点、補足させていただきたい。現在本町田東小にあるひとみ・きこえ・ことばの学級については、統合時を持って他校に移ることになるので、承知いただきたい。

#### (6) その他報告事項

新たな学校推進課 (資料2-9説明)

委員 路線バス乗り方教室にはバス会社も関わるのか。また、実際にバスでの登下校を行う際に、乗務員による子どもたちへのフォローはどのようにしてもらえるのか。

新たな学校推進課 路線バス乗り方教室はバス事業者の協力を得て、実際のバス車両を用いて実施する。また、乗務員によるフォロー等については、子どもの利用が増える旨の周知徹底を行い、可能な範囲で協力をお願いすることになる。

委員 実際にバスを利用する直前の時期等にも同様のものを実施していただきたい。また、新たに1年生になる未就学児についても対象としてもらえないか。

新たな学校推進課 来年度実施する際には未就学児も含めて実施したいと考えている。また、2028年度に現在の本町田東小学校の位置に通学先が変更となる際にも同様に実施できるよう、バス事業者とは話をしている。

### 3 検討事項

#### (1) 統合対象校の歴史の継承について

新たな学校推進課 (資料3-1説明)

[ ワークショップ ]

会長 (閉会の挨拶)